

YOSHIBUE

Vol. 35



日本形成外科学会・日本創傷外科学会
公式キャラクター キズを治す妖精「なおるん」



近江八幡市立総合医療センター
Omihachiman Community Medical Center

本格始動

形成外科

「形成外科って何をやる科なの？」そう思われる方も多いと思います。実際、医療者であっても、どういう病気や怪我が形成外科の守備範囲なのかよく知らない、という人は珍しくありません。実際に形成外科医が治療しているものをここでちょっと挙げてみましょう。

- 顔や手など、見た目が気になる部分のできものやケガ
- 熱傷や深い傷など、治りにくい傷
- 目立つ傷あとやケロイド
- 見た目に関わる先天異常・加齢性の変化（眼瞼下垂など）

これらに共通点はあるのでしょうか。いろいろあって、やっぱり何が形成外科の特徴なのか、わかりにくいかもしれません。形成外科の仕事とは、ごく簡単に言うと「見た目を癒す（いやす）」ことです。ここであえて「治す」ではなく「癒す」と書くことの意味を説明します。

形成外科は「見た目を癒す」仕事

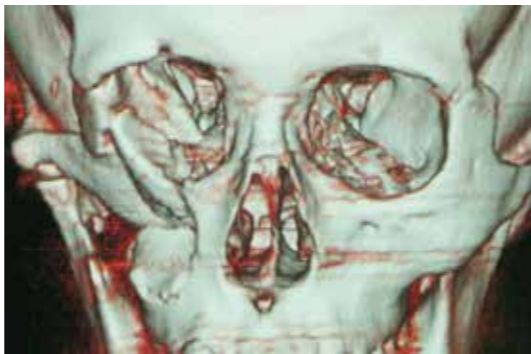


形成外科は、見た目に関わることであれば、臓器や部位に関係なく何でもやります。皮膚を扱う皮膚科と違って、顔の骨折など骨も扱います。耳・鼻・のどを扱う耳鼻咽喉科と違って、頭から足先まで扱います。整形外科も色んな部位の筋肉や骨を扱いますが、身体機能の治療を重視するのが形成外科と違うところです。もちろん形成外科も身体機能を気にして治療をしますが、それに加えて見た目のことも気にします。

先程は形成外科を「見た目を癒す」科だと書きましたが、正式には少し難しい表現をします。日本形成外科学会は形成外科を「身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、みなさまの生活の質『Quality of Life(QOL)』の向上に貢献する、外科系の専門領域」と説明しています。

医療の進歩とともに、病気やケガを治して寿命を延ばすだけでなく、良いQOLを保つことは、医療の大きな目標になっています。治療して寿命が延びても、痛みが続いたり、社会生活が送れなかったりすれば、その治療はみなさんの幸せにつながると言えるでしょうか。形成外科の役割は、QOLを改善し、病気やケガによって生じた「生きづらさ」を取り除くことにあります。この「生きづらさ」というのは、病気やケガだけが原因になるわけではありません。病気でなくても、生まれつき見た目が他の人と違ったり、身体の左と右で形が違ったり、そんな身体の特徴から生きづらさを感じる人もいます。身体の見え目から感じる生きづらさを取り除くのは、病気を治療するわけではないので、「治す」という字では意味が収まらないように思います。病気やケガを治すだけでなく、形を整え、心を癒し、生きづらさを取り除く。そういう意味で、形成外科は「見た目を癒す」科だと言えるのです。

顔面骨骨折



骨折による変形や歪みを整復してプレートで固定する手術を行います。顔の表面になるべく傷あとを残さないように、瞼の裏や口の中を切開して、骨折部を操作します。固定には主に吸収性プレートを使用します。数年すればプレートは溶けてなくなります。顎の骨など、強い力がかかる部分にはチタン製プレートを使用します。

腫瘍



顔や手など目立つ部位の皮膚腫瘍や、脂肪・筋肉に生じる軟部腫瘍は、診断の後、傷あとや見た目に配慮しながら切除術を行います。悪性腫瘍は大きく切除する必要があるため、組織に欠損が生じます。その場合、周囲の組織を移動させたり（有茎皮弁術）、他の部位の組織を移植する（植皮術、遊離皮弁術）ことで、見た目が損なわれないように治療します。

瘢痕・ケロイド



ケガや手術の後に残った傷あとは、半年ほどかけて徐々に目立たなくなるのが普通です。しかし、体質や傷の場所によっては、傷の赤さが消えず、盛り上がり痛みを伴う場合もあります。そのような傷に対して、痛みを取り除き、傷を目立たなくするために、ステロイド含有テープ、内服薬、手術、放射線治療を組み合わせた治療を行います。

難治性潰瘍



褥瘡（床ずれ）や、糖尿病・動脈硬化などによって生じた足潰瘍に対して手術治療を行います。傷んでしまった組織を切除し、皮弁術や植皮術を用いて傷を閉鎖します。傷の状態を良くするために、傷に吸引圧をかける陰圧閉鎖療法を行うこともあります。傷が治らない場合もありますが、日常の痛みや処置が軽減されるよう治療します。

形成外科の手術

形成外科

Plastic Surgery



形成外科 副部長
恋水 淳源

～profile～

平成19年 京都府立医科大学卒
医学博士
日本形成外科学会 形成外科領域指導医
日本形成外科学会 皮膚腫瘍外科分野指導医
日本創傷外科学会 専門医
日本乳房オンコプラスチックサージェリー学会
乳房再建用エキスパンダー/インプラント責任医師
日本臨床倫理学会 臨床倫理認定士

こんにちは、恋水です。お初にお目にかかる方が多いでしょうか。でも、実は私、9年前からここに非常勤医として来ていました。昨年と一昨年は他の施設にいましたが、今年度より常勤医として勤務しております。改めて、よろしく願っています。

さてみなさま、本紙冒頭から載せております、形成外科についてのご紹介、お読みいただけますでしょうか。まだの方は是非願います。そっちが本文で、メインですので。ここは後書き的な領域です。そういうことになりました。

本紙をお読みのみなさまのうち、形成外科について聞いたことがある、という方はどれぐらいおられるでしょうか。私が形成外科に初めて出会った興味を持ったのは、大学の頃に受けた形成外科の講義です。

体表のケガや病気を治すための色々な手術法と、目に見えて結果の分かるピフォアフター写真を見て、感銘を受けました。形成外科の技巧に魅せられたのです。けれど、形成外科の本質はそういう技術的な部分ではなく、本文で書いたような、生きづらさの改善というところにあります。私の場合、そこは形成外科医として働き始めてからようやく理解できるようになりました。

形成外科はマイナーな科です。本紙を手にとられる方が、どのような形で形成外科に触れることになるかは分かりません。関係ないまま一生を終える人の方が多いかもしれません。でも、もし、自分自身や周囲の誰かがここで書いたような生きづらさを抱えることになったら、その時は本紙を思い出して、形成外科のことを考えてもらえればと思います。

連携医療機関のご紹介



近江八幡市立総合医療センターでは、病院や開業医の先生方との協力・連携のもと、それぞれの医療機関が十分にその役目を果たし、住民の方が安心して生活を送れるよう地域全体の医療水準の向上に努めるとともに、地域完結型医療の実現を目指しています。

よりずみ医院

院長 頼住 一

診療科：内科

住所：近江八幡市古川町1192-77 TEL：0748-33-7533

ホームページ：<https://www.yorizumi-iin.com>



消化器内科を始め、内科全般と訪問診療をさせて頂いています。開業して26年、近年はコロナ感染診療やコロナワクチン接種など地域のかかりつけ医として皆さまの健康のお役に立てるようスタッフ一同頑張っています。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30~12:00	○	○	○		○	○	○
17:00~19:30	○	○			○		



堀江医院

院長 堀江 元

診療科：内科・循環器内科・リハビリテーション科・小児科・アレルギー科

住所：近江八幡市加茂町3660-5 TEL：0748-34-8131

ホームページ：<https://www.horie-iin.com>



父が開設した医院を2001年より継承し、半世紀以上にわたり地域医療に関わらせていただいております。ここ岡山地区は多世帯で暮らしておられる方が多い地区です。千春医師が小児科を、私が内科と、寝たきり患者さんへの在宅診療を担当、子供さんからお年寄りまで、まさにファミリードクターとして皆様の健康をサポートさせていただきたいと考えております。

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○		○	○
15:00~18:00	○	○	○		○	
9:00~12:00 (小児・アレルギー科)	○	○	○		○	☆

☆・・・土曜日は9:00~11:00



近江八幡市立総合医療センター

〒523-0082 滋賀県近江八幡市土田町 1379 番地

TEL 0748-33-3151 FAX 0748-33-4877